

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	のびやか・雄武	整理番号	45
基本施策	12	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 澤田 朋朗
単位施策	5	高校への継続的な支援		

1 施策の概要

基本方針	雄武高校については、通学費等や部活動への補助及び資格取得に係る助成を引き続き実施するとともに、高校存続のため魅力ある学校づくりを推進します。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	雄武高等学校の存続対策及び人材育成を目的とした町外生徒への通学費等及び部活動に対する補助制度並びに生徒の資格取得に係る助成制度は、同校の存続対策や魅力ある学校づくりへの推進に寄与している。	雄武高等学校の存続対策及び人材育成を目的とした町外生徒への通学費等及び部活動に対する補助制度並びに生徒の資格取得や進学対策に係る助成制度は、同校の存続対策や魅力ある学校づくりへの推進に寄与している。		
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	雄武高等学校の存続対策として町外生徒への通学費等補助制度を堅持しつつも、補助対象生徒の絶対数の減少等により、本制度による生徒確保の効果が及ばないことも懸念されるため、次善の策の検討とともに、道教委の方向等について留意していく必要がある。	雄武高等学校の存続対策として町外生徒への通学費等補助制度を堅持しつつも、補助対象生徒の絶対数の減少等により、本制度による生徒確保の効果が及ばないことも懸念されるため、次善の策の検討とともに、道教委の方向等について留意していく必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	雄武高等学校存続対策事業	教育総務係	0	B	継続／統合	B
②	雄武高等学校振興事業	教育総務係	5,023	A	継続／統合	B
③	雄武高等学校生徒資格取得支援助成事業	教育総務係	56	A	継続／統合	A
④	雄武高等学校生徒進学支援対策事業	教育総務係	500	A	終了	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武高等学校を地域の学校として存続させるためには、入学者の減少の抑制や魅力ある学校づくりを推進することが重要であり、引き続き行政の支援が必要である。本施策を実施しない場合、町外生徒の入学者数が減少し生徒数が確保されず、高校存続にも影響を及ぼすことが想定される。
② 有効性	B	施策を構成する各事務事業は概ね計画どおり進捗しているが、雄武中学校卒業生はもとより、他町からの入学者の確保において、施策内容の見直しが必要である。
③ 効率性	B	施策を構成する各事務事業による継続支援は必要であるが、学校におけるPR活動をはじめとする生徒の確保活動と行政による支援内容の見直しを施策の両輪として有機的に進める必要がある。
④ 公平性	A	本施策の推進にあたっては、地元の高校を存続させることが、町の活性化に寄与すると判断されることから、公平性は確保されるものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	本施策の推進にあたっては、地域の高校を存続させる観点から、議会及び町民理解のもと実施している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
雄武高等学校における魅力ある学校づくりを推進し、地域の学校として存続するための支援である必要があるが、生徒数を確保するにあたり、課題が残る。	同 左	

今後の方向性



継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更	
北海道が策定する「公立高等学校配置計画」の今後の動向に注視するとともに、雄武高等学校の存続を図るためには、生徒数を維持することが必要であり、進学・就職・運動部活動に対する総合的な施策内容の見直しが必要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止